

公安委員会定例会議(第21回)の開催状況

第1 日 時 令和5年8月23日(水)
午後2時03分 ～ 午後4時15分

第2 出席者 五葉委員長、小野委員
本部長、総務室長、警務部長、首席監察官、生活安全部長
刑事部長、交通部長、警備部長、警察学校長、情報通信部長
総務課長

第3 議事の概要

1 小野委員説示

本日、甲子園において全国高等学校野球選手権記念大会の決勝戦が行われています。甲子園という名称は、日本の野球文化において特別な響きを持ち、夏の風物詩ともいえる高校野球の祭典を指し示す言葉として、その歴史と情熱は国中の人々の心に深く刻まれています。

愛媛県においても、甲子園と名の付く大会がいくつか行われています。松山市の俳句甲子園、四国中央市の書道甲子園のほか、知名度では両者に及びませんが、新居浜市の全国選抜高校生溶接技術協議会、いわゆる「溶接甲子園」が行われています。先般開催された本大会では、北海道から沖縄まで全国の地区予選を勝ち抜いた女子生徒数名を含む37名が、“日本一熱い熱戦”を繰り広げました。

溶接は人類が金属を加工する技術の中で最も重要なものの一つであり、現在の産業では建築、交通機関などの基盤を支えています。古代文明では、金属加工は専ら砂型の中に溶けた金属を流し入れる鑄造という技法が使われ、武器、工具、装飾品などが作られていました。その後、熱した金属を打ち合わせる接合が行われ、建築などに広く使用されるようになりました。

また、近代的な溶接技術の発展は、産業革命による工業化と密接に関係しています。1800年代には電気溶接が発明され、電極を使って金属を溶かす手法が導入され、20世紀初頭にはアーク溶接が普及し、現代の建築、船舶建造、鉄道の発展に寄与しました。1960年に完成した東京タワーは重量4千トンで、リベット接合により組み立てられました。2012年に完成した東京スカイツリーは重量4万トンで、最大板厚10センチのパイプをトラス構造で組み立て、高度な溶接技術を用いて接合する方法で造られました。

また、他にも世界最高深度といわれる潜水艦や深海探査船には、世界に誇る日本の溶接技術が使われています。金属製造業の盛んな東予地域において、「溶接甲子園」の取組は、溶接技術の維持・向上と技術職の担い手不足に貢献しており、選手たちの溶接に対する熱い思いは、今後の進路やモチベーションにつながっていくものと期待しています。

警察職員の皆さんも目標や使命感を持って拝命されたと思います。全ての警察職員が初心を忘れることなく、誇りと使命感、そしてモチベーションを維持して県民の安全・安心を確保するために活躍されることを期待しています。

2 決裁事項

(1) 公安委員会定例会議の会議録

総務室から、令和5年第20回公安委員会定例会議の会議録について伺いがあり了承した。

(2) 公安委員会宛て苦情の受理

総務室から、公安委員会宛て苦情の受理について伺いがあり了承した。

(3) 禁止命令等実施報告

生活安全部から、禁止命令等実施報告について伺いがあり了承した。

(4) 緊急通行車両の確認等に係る事務手続要領の制定

交通部から、緊急通行車両の確認等に係る事務手続要領の制定について伺いがあり了承した。

(5) 愛媛県公安委員会事務専決規程の一部改正

交通部から、愛媛県公安委員会事務専決規程の一部改正について伺いがあり了承した。

(6) 指定自動車教習所に関する報告について

交通部から、指定自動車教習所に関する報告について伺いがあり了承した。

(7) 運転免許の行政処分に係る意見の聴取・聴聞

交通部から、運転免許の行政処分に係る意見の聴取及び聴聞結果について報告があり、審議の結果、23件の行政処分の決定について伺いがあり了承した。

3 報告事項

(1) 令和5年度第1回警察署協議会の開催状況

総務室長から、令和5年度第1回警察署協議会の開催状況について報告があった。

委員から、「各署とも様々な諮問、答申がなされており、有意義な協議会になったと思っている。今後も委員の声に耳を傾けてより良い警察署の運営を心掛けていただきたい」との発言があった。

(2) 令和5年上半期の苦情処理状況

総務室長から、令和5年上半期の苦情処理状況について報告があった。

委員から、「警察が取り扱う事案は様々であるが、憶測で発言したり誤解を与えたりすることがないように、説明の方法や内容をよく考えて丁寧に対応していただきたい」との発言があった。

委員から、「苦情が寄せられていることは非常に残念である。行き違いが生じることもあると思うが、警察は相手の立場に立って考え、適切な対応に努めていただきたい」との発言があった。

(3) 三井住友海上火災保険株式会社との「包括連携協定」の締結

警務部長から、三井住友海上火災保険株式会社との「包括連携協定」の締結について報告があった。

委員から、「協定先が増えるのは良いことである。県民の安全・安心の確保に向けて協定の輪がさらに広がるように検討いただきたい」との発言があった。

- (4) 愛媛県警察における警戒の空白を生じさせないための組織運営
警務部長から、愛媛県警察における警戒の空白を生じさせないための組織運営について報告があった。
委員から、「警戒の空白を生じさせないための組織運営の指針は情勢の変化と組織の現状を俯瞰的に分析した上で、警察力全体の最適化を図ることを主眼としている。県民の安全・安心に関わる重要な取組であることから、あらゆる観点から検討を重ねていただきたい」との発言があった。
- (5) 愛媛県サイバーテロ対策協議会総会の開催
警備部長から、愛媛県サイバーテロ対策協議会総会の開催について報告があった。
委員から、「サイバーテロ対策は、専門的な知見が必要な分野であり、企業の規模や担当者のスキルレベル（技術練度）により十分な対策が講じられていない可能性がある。今後も加入事業者との危機意識の共有と連携強化を図っていただきたい」との発言があった。
- (6) 苦情の受理及び処理状況
総務室から、苦情の受理及び処理状況について報告があった。
- (7) 監察案件に関する報告
警務部から、監察案件に関する報告があった。
- (8) 社交飲食店に係る不利益処分に伴う聴聞の実施
生活安全部から、社交飲食店に係る不利益処分に伴う聴聞の実施について報告があった。

4 その他

本部長から、「令和4年8月5日付で警察本部長に着任して以降、県民の安全・安心の確保に向けて各種の対策に取り組んできた。公安委員会からは、数々の貴重な御指導や御意見、御助言を賜り、改めて感謝申し上げますとともに、今後も引き続き、適切な御指導等をお願いしたい」との発言があった。

以上